



# 若者世代とともに歩む覚悟を持つとう

Heart to Heart

「とりあえずビール」はダメ!?

10年くらい前になりますが、居酒屋で新入社員の歓迎会を行った会社の話です。乾杯をしようとしたら、各自が様々な飲み物を選んでいてなかなか決まらない。業を煮やした上司が「こういう時は、とりあえずビールなんだよ」。乾杯後、さらに「いいか。そもそも飲み会では…」と始めてしまったので、場の雰囲気は一気にしらけてしまったということです。現在では「飲みハラ・アルハラ」と認定されてしまふような事例ですが、自分の経験上では当たり前前のことでも、若者世代にとっては自分の好きなものを選んで楽しく飲みたいということは重要なことなのです。このことを理解できるか、若者と接する中で体得できるか大切なのではないのでしょうか。

2002年度から完全学校週5日制がスタートしました。小学校1年生から順次土曜日が休日となり、完全週5日制で過ごした世代が教職員となり始めた2000年代後半から、新規採用者との間にギャップを感じるようになりました。私は土曜日が休日となった時、どう過ごしたらいいのかわからず、同僚と麻雀をして過ごしました。土日は、平日にできないことをじっくり徹底的に指導するのが当たり前だと思っていました。高校・大学生生活を完全週5日制で過ごしてきた世代の中には、週2日の休日の有効活用や充実した時間の過ごし方を積み重ねているので、土日

清水事務局長の

## ハート・トゥ・ハート

vol.6



の部活動を無しにして自分のために使うことを大事にしている人がいました。私は、当時は違和感やわだかまりを強く感じていました。

「人任せ」と「先送り」せずに、  
改革を進めよう!

新任のころ、印刷はガリ版やボールペン原紙でした。それがワープロの発展で格段に進化し、現在はパソコンです。ポケベルから携帯電話、そしてスマホへ。世代のギャップはめまぐるしく展開しました。老若男女、そういう各世代が一緒だから、びっくりすることが多いのは当然です。今、労働組合に必要なことは、そうした様々な時代背景や価値観の

中で過ごしてきた若者の考えや感性を理解し、共感を持つことではないでしょうか。そのためには、頭で理解するだけでなく、一緒に行動して、ともに考え、理解し合うことが必要です。ただ機会や予算を設けるだけでなく、また若者だけに答えを求めるのではなく、全世代が若者とともに汗をかいて行動する。取り組みの同じ時間を共有する。そして、本気で変えていくという覚悟を持つことです。

連合のZ世代モバイル調査の「関心のある社会課題」の学生の1位は「ジェンダー差別」で、社会人の1位は「長時間労働」です。国が自治体や企業に女性参画30%を求めるならば、まずは国会議員を男女半々にする覚悟が必要です。

2018年の「候補者男女均等法」は努力目標を定めた理念法で、「2020年までに指導的地位における女性の割合を30%程度にする」という政府の目標は先送りされました。一方、2019年には罰則付きの時間外労働の上限規制を定めた改正労働基準法が施行されました。

改革を阻むものが二つあります。それは、「人任せ」と「先送り」です。私たちの運動は、道を拓いて歩みを進めることです。機を見て、また、変革のチャンスを得て、動かない人、動こうとしない人、動けない人がいます。その姿勢が改革の歩みを止めてしまうのです。今こそ、ジェンダー平等と働き方改革を前進させる好機です。覚悟を持って若者世代とともに社会の変容を求めていきましょう。



清水秀行 連合事務局長